

<外国語活動のねらい>

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

<指導の重点> **外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う**

| | | |
|-----------------|---|---|
| 指導計画の工夫改善 | (1) 一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう、指導目標と指導内容を明確にする。 | |
| | ① | 目標にある3つの柱を踏まえた活動を統合的に体験することができるよう指導目標を設定しているか。 |
| | ② | コミュニケーション能力の素地が中学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力の基礎につながることを意識しながら、外国語活動にふさわしい指導内容を設定しているか。 |
| | ③ | 単元を通して具現したい「積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿」を、単元の指導目標として具体化し、各単位時間においては単元の指導目標の達成につながるようねらいを明確に設定しているか。 |
| | (2) 児童の実態や学習段階等を考慮し、2学年間を通じた指導計画を作成する。 | |
| | ④ | 学年ごとの目標を定め、2学年間を通じてコミュニケーション能力の素地の育成を目指しているか。 |
| | ⑤ | “Hi, friends!”を活用して発達の段階を考慮した表現を選定し、体験的なコミュニケーション活動を位置付けているか。 |
| ⑥ | 児童にとって表現や活動が過度の負担とならないよう、単元を通して英語の音声や基本的な表現に繰り返し触れながら慣れ親しみ、言語や文化について体験的に理解を深めたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を養うことができるよう単元指導計画を工夫改善しているか。 | |
| ⑦ | 中学校への円滑な移行を視野に入れ、中学校区内で連携を図りながら指導計画を作成しているか。 | |
| 学習活動や指導方法の工夫 | (1) 学級担任が主体となり、コミュニケーションを図る楽しさを体験する活動を設定する。 | |
| | ① | 学級担任が主体となって授業を行い、学習者のモデルとしての役割を果たしているか。 |
| | ② | 児童にとって身近で、進んでコミュニケーションを図りたくなるような体験的な活動を工夫しているか。 |
| | ③ | 児童の柔軟な適応力を生かして楽しく英語に触れることができる活動を効果的に取り入れているか。 |
| | (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が具現されるよう指導方法を工夫する。 | |
| | ④ | 英語の音声等に繰り返し触れることで十分に慣れ親しむことができるよう指導過程を工夫しているか。 |
| | ⑤ | 表現を暗唱させるのではなく、実際にコミュニケーションを図ることのできる場面を設定しているか。 |
| ⑥ | 視聴覚教材や具体物を効果的に活用し、児童の興味や意欲を引き出す工夫を行っているか。 | |
| ⑦ | 設置者が設定した(3つの)観点に基づき、何を評価するのかを明確にして指導に当たっているか。 | |
| 学習集団の育成と指導体制の充実 | (1) 互いに認め合い、安心してコミュニケーションを図ることができる学習集団を育成する。 | |
| | ① | 何とか伝えたり理解したりしようとする態度を的確にとらえ、認め励ます評価を大切にしているか。 |
| | ② | 誤りの指摘ではなくALT等の英語に触れさせることで、気付きを促す指導を大切にしているか。 |
| | ③ | コミュニケーションを図る喜びや成就感がもてるよう自己評価や相互評価を効果的に行っているか。 |
| | (2) 全教職員で効果的な指導が行われるよう、学習環境や校内の指導体制を整える。 | |
| | ④ | 指導計画や指導方法を検討する場を校内の指導体制に位置付けているか。 |
| | ⑤ | 指導方法についての校内研修を実施したり、授業の進め方を日常的に交流したりしているか。 |
| ⑥ | 誰でも気軽に教材を使用できるよう保管方法を工夫するなど指導に生きる環境整備に努めているか。 | |
| ⑦ | 教育委員会や中学校区内の小中学校との連携を図りながら、研修の充実に努めているか。 | |

